

2019年度 高校2年

教科	数学	科目	数学Ⅱ	単位数	4
コース	未来創造 Will Frontier 文系			クラス	1, 2, 7組
教科書	改訂版 数学Ⅱ (数研出版)				
副教材	クリアー数学Ⅱ+B(数研出版)				
期間	授業内容			学習到達目標	
1 学 期 中 間	第2章 複素数と方程式 第2節 高次方程式 第3章 図形と方程式 第1節 点と直線			<ul style="list-style-type: none"> ・高次方程式を解くことができる ・点と直線に関する各公式が使える 	
1 学 期 期 末	第3章 図形と方程式 第2節 円 第3節 軌跡と領域			<ul style="list-style-type: none"> ・円を方程式で表すことができる ・円の接線の式が求められる ・軌跡の方程式が求められる ・領域が図示できる 	
2 学 期 中 間	第4章 三角関数 第1節 三角関数 第2節 加法定理			<ul style="list-style-type: none"> ・相互関係を利用して計算できる ・三角方程式・不等式が解ける ・加法定理, 2倍角, 半角の公式、合成の計算ができる 	
2 学 期 期 末	第5章 指数関数と対数関数 第1節 指数関数 第2節 対数関数 第6章 微分法と積分法 第1節 微分係数と導関数			<ul style="list-style-type: none"> ・指数の計算ができる ・指数方程式・不等式が解ける ・対数の計算ができる ・対数方程式・不等式が解ける ・微分を用いて接線が求められる 	
学 年 末	第6章 微分法と積分法 第2節 関数の値の変化 第3節 積分法			<ul style="list-style-type: none"> ・微分を用いてグラフが描ける ・積分を用いて面積が求められる 	
備考					
また、各単元の終了ごとに確認テストを行い、未到達者には補習を行う。 考査ごとに問題集を課題とし、提出させる。					

2019年度 高校2年

教科	数学	科目	数学Ⅱ	単位数	4
コース	一貫未来創造コース			クラス	3組
教科書	改訂版 数学Ⅱ (数研出版)				
副教材	REPEAT 数学Ⅱ + B (数研出版) FOCUS GOLD (啓林館)				
期間	授業内容		学習到達目標		
1 学 期 中 間	第6章 微分積分 微分		微分とは何か、微分の考え方やその意味を理解し、微分を利用した計算ができる。		
1 学 期 期 末	第6章 微分積分 積分		積分とは何か、積分の考え方やその意味を理解し、積分を利用した計算ができる。		
2 学 期 中 間	第1章 数と式 (数Ⅰ) 四則計算と因数分解など 第3章 2次関数		文字式の色々な計算ができる。2次関数の復習		
2 学 期 期 末	第3章 2次関数 第4章 図形と計量		2次関数の典型的な応用問題が解ける。三角比の基本的な性質、公式の理解の定着を図る。		
学 年 末	第4章 図形と計量		三角比の性質・定理を用いた典型的な応用問題が解ける。		
備考					
基礎・基本 (教科書の例題レベル) の理解、習得を目標とする。 単元毎に小テストを実施する。					

2019年度 高校2年

教科	数学	科目	数学Ⅱ	単位数	4
コース	一貫 Will Frontier 文系			クラス	9組文系
教科書	改訂版 数学Ⅱ (数研出版)				
副教材	4プロセス数学Ⅱ+B (数研出版) FocusGold Ⅱ+B (啓林館)				
期間	授業内容			学習到達目標	
1 学 期 中 間	第1章 式と証明 第2章 複素数と方程式			各章の重要公式、概念の理解を定着させる。	
1 学 期 期 末	第6章 微分と積分 微分			微分とは何か、微分の考え方やその意味を理解し、微分を利用した計算ができる。	
2 学 期 中 間	第6章 微分積分 積分 第3章 図形と方程式			積分とは何か、積分の考え方やその意味を理解し、積分を利用した計算ができる。 練習問題を通して、基本的な考え方や定理・公式の仕組みを完全に理解させる。	
2 学 期 期 末	第3章 図形と方程式 第4章 三角関数			練習問題を通して、基本的な考え方や定理・公式の仕組みを完全に理解させる。	
学 年 末	第4章 三角関数 第5章 指数・対数関数			基礎的な考え方の定着を図り、応用問題に対応させる。	
備考					
講義を中心とするが、ある程度授業が進んだところでアクティブラーニングを取り入れる。 また、各単元の終了ごとに確認テストを行い、未到達者には補習を行う。					

2019年度 高校2年

教科	数学	科目	数学Ⅱ	単位数	4
コース	未来創造 Will Frontier 理系			クラス	4, 5, 8組
教科書	改訂版 数学Ⅱ, 数学Ⅲ (数研出版)				
副教材	クリアー数学Ⅱ+B, 改訂版クリアー数学Ⅲ (数研出版)				
期間	授業内容		学習到達目標		
1 学 期 中 間	第2章 複素数と方程式 (数学Ⅱ) 高次方程式		・高次方程式を解くことができる		
	第3章 図形と方程式 点と直線 円		・点と直線に関する各公式が使える ・円を方程式で表すことができる ・円の接線の式が求められる		
1 学 期 末	第3章 図形と方程式 軌跡と領域		・軌跡の方程式が求められる ・領域が図示できる		
	第4章 三角関数 三角関数		・相互関係を利用して計算できる ・三角方程式・不等式が解ける		
2 学 期 中 間	第4章 三角関数 加法定理		・加法定理, 2倍角, 半角の公式, 合成の計算ができる		
	第5章 指数関数と対数関数 指数関数 対数関数		・指数, 対数の計算ができる ・指数方程式・不等式が解ける ・対数の計算ができる		
2 学 期 末	第5章 指数関数と対数関数 対数関数		・対数方程式・不等式が解ける ・常用対数の計算ができる		
	第6章 微分と積分 微分係数と導関数 関数の値の変化 積分法		・微分を用いて接線が求められる ・微分を用いてグラフが描ける ・積分を用いて面積が求められる		
学 年 末	数Ⅲ 第4章 極限 (数学Ⅲ) 極限		・数列の極限が求められる ・関数の極限が求められる ・無限級数の和が求められる		
備考					
各単元の終了ごとに確認テストを行い、未到達者には補習を行う。 考査ごとに問題集を課題とし、提出させる。					

2019年度 高校2年

教科	数学	科目	数学Ⅱ	単位数	4
コース	一貫未来創造 理系			クラス	6組
教科書	改訂版 数学Ⅱ(数研出版) 改訂版 数学Ⅲ(数研出版)				
副教材	REPEAT 数学Ⅱ+B(数研出版) 改訂版 クリアー数学Ⅲ(数研出版)				
期間	授業内容			学習到達目標	
1 学 期 中 間	<数学Ⅱ> 第6章 微分法と積分法 第1節 微分係数と導関数 第2節 関数の値の変化			微分とは何か、微分の考え方やその意味を理解し、 微分を利用した計算ができる。	
1 学 期 期 末	<数学Ⅱ> 第6章 微分法と積分法 第3節 積分法			積分とは何か、積分の考え方やその意味を理解し、 積分を利用した計算ができる。	
2 学 期 中 間	<数学Ⅲ> 第4章 極限 第1節 数列の極限 第2節 関数の極限			極限の概念を理解する。極限の計算ができる。	
2 学 期 期 末	<数学Ⅲ> 第5章 微分法 第1節 導関数 第2節 いろいろな関数の導関数			数Ⅱでの微分の理解も確認しつつ、さらに高度な関数の 導関数の導き方を理解する。	
学 年 末	<数学Ⅲ> 第6章 微分法の応用 第1節 導関数の応用 第2節 いろいろな応用			第2次導関数の導入により、グラフの凹凸に言及する。 方程式や不等式への応用問題に微分が役立つことを 理解する。	
備考					
講義を中心とするが、ある程度授業が進んだところでアクティブラーニングを取り入れる。 また、各単元の終了ごとに確認テストを行い、未到達者には補習を行う。 考査ごとに問題集を課題とし、提出させる。					

2019年度 高校2年

教科	数学	科目	数学Ⅱ	単位数	4
コース	一貫 Wil Frontier 理系			クラス	9組
教科書	改訂版 数学Ⅱ (数研出版) 改訂版 数学Ⅲ (数研出版)				
副教材	4プロセス数学Ⅱ+B (数研出版) 改訂版 クリアー数学Ⅲ (数研出版)				
期間	授業内容			学習到達目標	
1 学 期 中 間	<数学Ⅱ> 第6章 微分法と積分法 第1節 微分係数と導関数 第2節 関数の値の変化			微分とは何か、微分の考え方やその意味を理解し、 微分を利用した計算ができる。	
1 学 期 期 末	<数学Ⅱ> 第6章 微分法と積分法 第3節 積分法			積分とは何か、積分の考え方やその意味を理解し、 積分を利用した計算ができる。	
2 学 期 中 間	<数学Ⅲ> 第4章 極限 第1節 数列の極限 第2節 関数の極限			極限の概念を理解する。極限の計算ができる。	
2 学 期 期 末	<数学Ⅲ> 第5章 微分法 第1節 導関数 第2節 いろいろな関数の導関数			数Ⅱでの微分の理解も確認しつつ、さらに高度な関数の 導関数の導き方を理解する。	
学 年 末	<数学Ⅲ> 第6章 微分法の応用 第1節 導関数の応用 第2節 いろいろな応用			第2次導関数の導入により、グラフの凹凸に言及する。 方程式や不等式への応用問題に微分が役立つことを 理解する。	
備考					
<p>講義を中心とするが、ある程度授業が進んだところでアクティブラーニングを取り入れる。</p> <p>また、各単元の終了ごとに確認テストを行い、未到達者には補習を行う。</p> <p>考査ごとに問題集を課題とし、提出させる。</p>					

2019年度 高校2年

教科	数学	科目	数学B	単位数	2
コース	未来創造(1, 2組) Will-Frontier(7組) 文系			クラス	1, 2, 7組
教科書	改訂版 数学B(数研出版)				
副教材	クリアー数学Ⅱ+B(数研出版)				
期間	授業内容			学習到達目標	
1 学 期 中 間	第1章 平面上のベクトル 第1節 ベクトルとその演算			<ul style="list-style-type: none"> ベクトルの和・差・実数倍が計算できる ベクトルの成分計算ができる 内積の計算ができる 	
1 学 期 期 末	第1章 平面上のベクトル 第2節 ベクトルと平面図形			<ul style="list-style-type: none"> ベクトルを用いて図形問題が解ける 	
2 学 期 中 間	第2章 空間ベクトル			<ul style="list-style-type: none"> 空間ベクトル・空間座標を理解する ベクトルを用いて図形問題が解ける 平面・球面を方程式で表せる 	
2 学 期 期 末	第3章 数列 第1節 等差数列と等比数列 第2節 いろいろな数列			<ul style="list-style-type: none"> 等差・等比数列の一般項と和を求めることができる 階差数列から一般項が求められる 数列の和から一般項が求められる 和の計算ができる 	
学 年 末	第3章 数列 第3節 漸化式と数学的帰納法			<ul style="list-style-type: none"> 漸化式の意味を理解する 基本的な漸化式が解ける 数学的帰納法を用いた証明ができる 	
備考					
また、各単元の終了ごとに確認テストを行い、未到達者には補習を行う。 考査ごとに問題集を課題とし、提出させる。					

2019年度 高校2年

教科	数学	科目	数学 B	単位数	2
コース	未来創造コース			クラス	3組
教科書	改訂版 数学 A・数学 B (数研出版)				
副教材	REPEAT 数学 I +A, II +B (数研出版)		FOCUS GOLD (啓林館)		
期間	授業内容		学習到達目標		
1 学 期 中 間	第3章 数列 (数学 B) 数列の復習		<ul style="list-style-type: none"> ・等差数列・等比数列の一般項とその和を求める公式について理解し、適切に活用することができる。 ・和の記号Σについて理解し、基本的な計算をすることができる。 		
1 学 期 期 末	第3章 数列 (数学 B) 数列の復習		<ul style="list-style-type: none"> ・階差数列について理解し、基本的な問題を解くことができる。 ・いろいろな数列の一般項、群数列について理解し、基本的な問題を解くことができる。 ・漸化式の基本的な問題を解くことができる。 		
2 学 期 中 間	第1章 場合の数と確率 (数 A) 場合の数と確率の復習		<ul style="list-style-type: none"> ・場合の数・確率に関する基本的な概念、用語を理解し、基本的な問題を解くことができる。 		
2 学 期 期 末	第2章 ベクトル (数学 B) ベクトルの復習		<ul style="list-style-type: none"> ・ベクトルの基本的な性質について理解し、適切に運用することができる。 ・ベクトルの内積について理解し、基本的な問題を解くことができる。 		
学 年 末	第2章 ベクトル (数学 B) ベクトルの復習		<ul style="list-style-type: none"> ・位置ベクトルについて理解し、基本的な問題を解くことができる。 ・ベクトル方程式について理解し、基本的な問題を解くことができる。 ・空間ベクトルに関する基本的な問題を解くことができる。 		
備考					
基礎・基本 (教科書の例題レベル) の理解、習得を目標とする。 単元毎に小テストを実施する。					

2019年度 高校2年

教科	数学	科目	数学B	単位数	2
コース	一貫 Will Frontier 文系			クラス	9組文系
教科書	改訂版 数学B (数研出版)				
副教材	4 プロセス数学Ⅱ+B (数研出版) FocusGold Ⅱ+B (啓林館)				
期間	授業内容			学習到達目標	
1 学 期 中 間	第3章 数列			教科書に載っていないが問題集に載っている重要な漸化式や帰納法の問題演習を行い、発展問題に対応させる。	
1 学 期 期 末	第3章 数列			入試問題を利用して基本を重点的に演習し、応用まで対応させていく。	
2 学 期 中 間	第1章 平面ベクトル			入試問題を利用して基本を重点的に演習し、応用まで対応させていく。	
2 学 期 期 末	第1章 平面ベクトル			入試問題を利用して基本を重点的に演習し、応用まで対応させていく。	
学 年 末	第2章 空間ベクトル			入試問題を利用して基本を重点的に演習し、応用まで対応させていく。	
備考					
講義を中心とするが、ある程度授業が進んだところでアクティブラーニングを取り入れる。 また、各単元の終了ごとに確認テストを行い、未到達者には補習を行う。					

2019年度 高校2年

教科	数学	科目	数学B	単位数	3
コース	未来創造 Will Frontier 理系			クラス	4, 5, 8 組
教科書	改訂版 数学B, 数学Ⅲ (数研出版)				
副教材	クリアー数学Ⅱ+B, クリアー数学Ⅲ (数研出版)				
期間	授業内容		学習到達目標		
1 学 期 中 間	第1章 平面上のベクトル (数学B) ベクトルとその演算 ベクトルと平面図形		<ul style="list-style-type: none"> ベクトルの和・差・実数倍・内積が計算できる ベクトルの成分計算ができる ベクトルを用いて図形問題が解ける 		
1 学 期 期 末	第1章 平面上のベクトル ベクトルと平面図形 第2章 空間のベクトル		<ul style="list-style-type: none"> ベクトルを用いて図形問題が解ける 空間ベクトル・空間座標を理解する 平面・球面を方程式で表せる 		
2 学 期 中 間	第2章 空間のベクトル 第3章 数列 等差数列と等比数列		<ul style="list-style-type: none"> 等差・等比数列の一般項と和を求めることができる 階差数列から一般項が求められる 数列の和から一般項が求められる 和の計算ができる 		
2 学 期 期 末	第3章 数列 いろいろな数列 漸化式と数学的帰納法		<ul style="list-style-type: none"> 漸化式の意味を理解する 基本的な漸化式が解ける 数学的帰納法を用いた証明ができる 		
学 年 末	数Ⅲ 第1章 複素数平面 (数学Ⅲ) 複素数平面		<ul style="list-style-type: none"> 複素数の和・差・積・商の図形的な意味を理解する ド・モアブルの定理の計算ができる 複素数平面を用いて図形の問題を解くことができる 		
備考					
各単元の終了ごとに確認テストを行い、未到達者には補習を行う。 考査ごとに問題集を課題とし、提出させる。					

2019年度 高校2年

教科	数学	科目	数学B	単位数	3
コース	一貫未来創造			クラス	6組
教科書	改訂版 数学B (数研出版)		改訂版 数学Ⅲ (数研出版)		
副教材	4プロセス数学Ⅱ+B (数研出版)		改訂版 クリアー数学Ⅲ (数研出版)		
期間	授業内容			学習到達目標	
1 学 期 中 間	第3章 数列 漸化式 数学的帰納法			教科書に載っていないが問題集に載っている重要な漸化式や帰納法の問題演習を行い、発展問題に対応させる。	
1 学 期 期 末	第3章 図形と方程式 直線の方程式 円の方程式 軌跡と領域			練習問題を通して、基本的な考え方や定理・公式の仕組みを完全に理解させる。	
2 学 期 中 間	第1章 平面ベクトル 第2章 空間ベクトル			入試問題を利用して基本を重点的に演習し、応用まで対応させていく。	
2 学 期 期 末	第1章 式と証明 式の計算・二項定理・証明 第2章 複素数と方程式 剰余・因数定理・高次方程式			練習問題を通して、基本的な考え方や定理・公式の仕組みを完全に理解させる。	
学 年 末	数学Ⅲ 第1章 複素数平面 (最初～最後)			複素数平面の考え方や複素数の表し方 複素数と図形との関係を理解する。	
備考					
<p>講義を中心とするが、ある程度授業が進んだところでアクティブラーニングを取り入れる。</p> <p>また、各単元の終了ごとに確認テストを行い、未到達者には補習を行う。</p> <p>考査ごとに問題集を課題とし、提出させる。</p>					

2019年度 高校2年

教科	数学	科目	数学B	単位数	3
コース	一貫 Will Frontier 理系			クラス	9組理系
教科書	改訂版 数学B 数学Ⅲ (数研出版)				
副教材	4プロセス数学Ⅱ+B, クリア-数学Ⅲ (数研出版) FocusGold Ⅱ+B, Ⅲ (啓林館)				
期間	授業内容			学習到達目標	
1 学 期 中 間	第3章 数列 漸化式 数学的帰納法			教科書に載っていないが問題集に載っている重要な漸化式や帰納法の問題演習を行い、発展問題に対応させる。	
1 学 期 期 末	第3章 図形と方程式 直線の方程式 円の方程式 軌跡と領域			練習問題を通して、基本的な考え方や定理・公式の仕組みを完全に理解させる。	
2 学 期 中 間	第1章 平面ベクトル 第2章 空間ベクトル			入試問題を利用して基本を重点的に演習し、応用まで対応させていく。	
2 学 期 期 末	数学Ⅲ 第1章 複素数平面 (最初～最後)			複素数平面の考え方や複素数の表し方 複素数と図形との関係を理解する。	
学 年 末	数学Ⅲ 第2章 式と曲線 (2次曲線)			放物線, 楕円, 双曲線の定義とその方程式について学ぶ。また、各曲線の性質を理解する。	
備考					
講義を中心とするが、ある程度授業が進んだところでアクティブラーニングを取り入れる。 また、各単元の終了ごとに確認テストを行い、未到達者には補習を行う。					